

宿泊業 静けさ武器に

静岡市の西端にある用宗漁港。大型施設はなく、古民家や蔵が主張することなく静かにたたずむ。焼津や沼津と比べてどこか控えめで、鄙びた風情が漂う。

CSAトラベル（静岡市）社長の小島孝仁さん（49）は2020年8月のある週末、そんな漁港近くを歩いている途中で、女子大生とみられる若いグループが海を見ながら語り合っている姿を見た。「3年前には猫しか歩いていなかった場所なのに、若い人が訪れるようになるなんて」と、感無量になった。

小島さんは用宗にある築50、80年の古民家6棟を改装し、1棟貸す宿泊施設「日本色」を運営する。新型コロナウイルス感染症拡大の影響下において、夏頃から利用の少なかった若い客層が増えた。

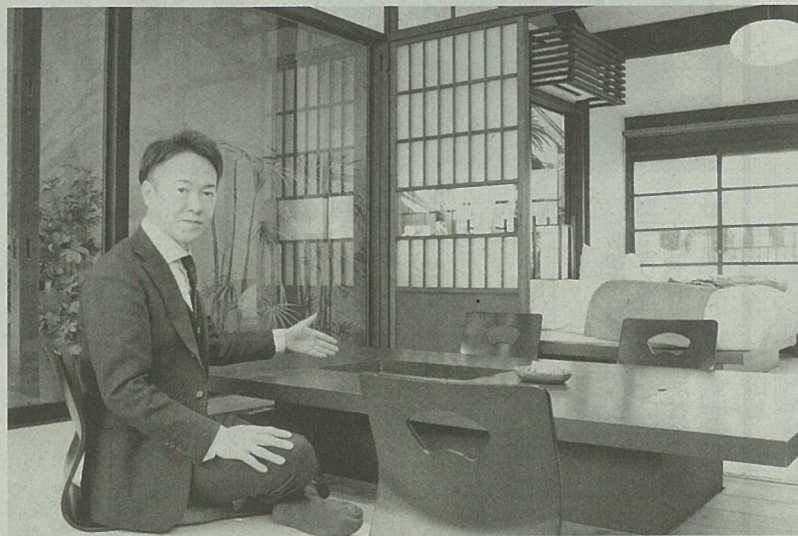
小島さんは27歳で不動産業界に入った。静岡市内で店舗やオフィスの仲介を続ける中、近年は一等地のテナントが長い間埋まらないなど街の衰退を感じた。CSAトラベルを16年に設立したのは、静岡市に観光客を呼び込む狙いもあった。

その先へ
新型コロナ
2021

2

用宗には約15年前に仕事で初訪問した時、懐かしさ、落ち着きのある独特の空気に触れ、「人氣観光地の潜在力がある」と思い続けていた。JR静岡駅から用宗駅は東海道線でわずか7分。なのに、「いい意味で」開発が進んでいなかった。ビジネスチャンスを探っていた

CSAトラベル



日本色の1棟を紹介する小島さん。囲炉裏を置くこともできる

風情残る古民家1棟貸し

たところに、用宗で隣り合う古民家2棟が売られると聞いて、奮い立った。会社で所有していた築区鷹匠の賃貸マンションを売却し、資金にまわすことにした。鷹匠は、名店が多く「静岡の代官山」とも呼ばれる一等地だ。銀行の担当者からは「用宗なんて誰が行くんですか」と強く反対された。それでも、隅々まで用宗を回り「うまいく」という確たる自信があった。

日本色の開業後、宿泊と一結に食を楽しめる場所が必要と考え、静岡らしい飲食店を集めた「みなと横丁」をオープンした。近くにクラフトビール工場もある温浴施設を建設した。いずれも漁港のそばに複数の施設をコンパクトにまとめ、用宗の良さである風情もそのままにした。夏の海水浴シーズン以外、人出のほとんどなかった街に人が集まり始めた。

いずれも漁港のそばに複数の施設をコンパクトにまとめ、用宗の良さである風情もそのままにした。夏の海水浴シーズン以外、人出のほとんどなかった街に人が集まり始めた。

こうした中で、新型コロナウイルスの感染が広がった。緊急事態宣言が発令された翌日、従業員から無料通信アプリ「LINE」で送られたキャンセルの報告には、これまで見たことのない十数件という数字があった。「（現在）6棟の日本色で十数件は大きい。この状況が続くのだろうか」。新事業として静岡駅周辺の商業ビルに宿泊施設「ビル泊」をオープンしたばかり。頭の中は当面の資金調達

など考え事ではいっぱいだった。家のようにくつろいでもらうという日本色のコンセプトが幸いした。客は同じ場所で食事せず、風呂と脱衣所を共有しない。「3密」が注目され始める中で、春先に落ち込んだ客足は回復し、7、11月の売り上げは前年を上回った。密を避けられることは、コロナ禍の武器になると示した。

20年には、混雑を避けて買い物を楽しめる商業施設「HUT PARK 用宗」をつくった。今春にかけて飲食店やジムが順次オープンする。小島さんは、「人が『旅をしたい』という気持ちは普遍的だと思う。新型コロナウイルスが収束しても、選んでもらえる観光地を作りたい」と意気込む。

県によると、20年2、9月の県内の宿泊客数は全ての月で前年を下回った。その一方で、県内の宿泊施設に行ったアンケートでは、10月の売上高（見込み）が前年より減った割合は52.5%にとどまり、増えた施設が33.3%に上った。

県観光協会の望月宏明専務理事は政府の観光支援策の効果と分析し、「割引額の大きい高級旅館や、格安の宿泊施設に人が集まっている」と話す。そのうえで、「国の支援策は影響が大きく出ないよう工夫が求められる」と語った。